

アート鑑賞し英語学ぶ

瀬戸芸に向け 宇野港、直島 市内中高生19人

来年の瀬戸内国際芸術祭に向け、市内の中高生が11日、宇野港と直島で、市内の外国語指導助手や岡山大学の外国人留学生らと一緒に現代アート作品を鑑賞し、実践的な英語を学んだ。

国際感覚を養うことを目的にした市教委の「たまのスケッチャー」に出発した。宇野港にある「宇野」のチヌ」の前で、今回のプログラムを考えた岡山大教育学部2年野村慶太さん(23)が「外国人は作品がなぜ作られたかを深く考える。できる範囲で自分の考えを伝えてみよう」と提案。生徒たちは「近くで見ると、ごみばかり」「環境問題を訴えているのかな」などと身ぶり手ぶりを交えて話し合った。

い。まだ単語を並べは春(4月26日)5月26日)、夏(7月19日)、秋(9月28日)として活動することを目標に、宇野港周辺でポランティアガイドと市教委は、プログラムに参

瀬戸内国際芸術祭 委は、プログラムに参 (松山定道)



「赤かぼちゃ」の前で一緒に記念撮影する留学生と生徒ら

フェリーで渡った直島では「赤かぼちゃ」やベネッセハウスミュージアムを見学し、アート談議に花を咲かせた。

玉野高1年河口成美さん(16)は「同じ作品を見て、感じたことが相手に伝わると楽し

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。